

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300116		
法人名	株式会社 マジェスティック		
事業所名	芦刈紀水苑		
所在地	佐賀県小城市芦刈町大字永田3220-2		
自己評価作成日	平成29年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年3月13日	外部評価確定日	平成29年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>勤務歴の長い職員が多いので利用者やご家族とのなじみの関係ができています。医療機関とは24時間連携が取れており、今年度もターミナルケア2例にも対応してもらっており、入居者、ご家族、スタッフ共に安心して苑生活がおこなわれている。穏やかな雰囲気の中で過ごしてもらっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の方針として、現場のことは現場に任せている。職員は意見も言いやすく、出されたアイデアへの対応も早い。各居室にあるスナップ写真帳はその一例である。日常のコマが貼られ、訪れた家族が見れば様子が分かるというものである。今後はそこにメッセージを添え、家族には返事が書ける欄を設ける予定である。事業所と家族のコミュニケーション・ツールとなり、想いも汲み取れるよう考えている。また、セキュリティ会社との契約も心強く、業者による毎月の害虫駆除消毒は衛生面への配慮がうかがえる。医療連携では協力医が在宅支援診療所であり、訪問看護ステーションにも支えられ、事業所では全幅の信頼をおいている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目標として職員は実践するように心がけている。	開設から14年目を迎える。当初の理念はフランチャイズ本部と相談しながらのものであったが、後年、地域密着が謳われるようになり「地域との交界りのなかで」という文言を付加している。年度ごとに運営計画を立て、そこに理念と方針、具体例を挙げ掲示している。目に付く所に貼ることで意識付けを図り、職員会議でも話題にしている。職員は利用者の想いに寄り添いながら「一日一日を穏やかに」過ごしてもらえよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外で会ったら積極的に挨拶を交わすようにしている。水害の恐れがあるようなときにはわざわざ声をかけてもらったりした。	自治会に加入しており、地域の情報は広報紙や運営推進会議の折に区長からもたらされている。事業所の行事はささやかに開いているため地域の方々を招くまでには至っていないが、AED講習会に場を提供したこともある。また、地区の祭りでは一行が事業所内へ入り披露してくれている。避難訓練には参加してもらったこともあり、見守りや連絡を頼める関係は築けている。今後は回覧板を利用して事業所からの発信ができないか検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に話をした程度で、多くの方に向けてはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	数多くはできていないが、充実した内容の会議や報告ができています。	運営推進会議は外部の人の目が入る貴重な機会と承知しながらも、2ヶ月に一回の開催が難しい時もある。当日は14時から約一時間を要し有意義なものとなるよう努めている。家族へも出席をお願いしている。市担当者や区長2名を迎え、協力の意思表示は受けている。今後はこの会議をきっかけに、介護のプロとして地域との交流が広がればと模索している。外部評価の結果報告も行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	おたっしや本舗とは連絡を取っており、空き状況についての問い合わせなどもある。	市担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から顔見知りである。異動があれば会議の際にも報告がある。事業所外でも医療や介護などの関連業種の集まりで会うこともあり、相談事にも実直に対応してもらえる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての理解はある。社会で起きている事件や入居者の知人のトラブルから警察関係者からのアドバイスもあり玄関の施錠はすることにしている。来訪者の確認ができるように玄関にドアホンを設置した。	指針があり、入居時に説明もしている。職員の研修はフランチャイズ本部や事業所独自でも行っている。もし不適切な場面を見たら別室にすぐに指導することとしている。時間をおくと職員本人の意識も薄れるからである。また、他県での事件等を受け、玄関は常に施錠している。しかし、外へ向かう利用者がいれば開けて一緒に歩き、無理に引き返すことはしないというのが基本である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	FC勉強会にて学ぶ機会があり、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	FC勉強会にて学ぶ機会があり、今後の支援に活用できればと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などにはわかりやすいように説明するようにしている。わかりにくいと思われる内容は特に丁寧に説明するようにしている。質問にはいつも答えられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なかなか意見は出にくい、要望などを伝えられる機関についても説明している。家族会などで時間を取り、話せる時間を設けている。	家族の訪問は様々で差はある。来所の際には世間話や利用者の近況を伝えながら要望等も話してもらえよう努めている。なかなか来られない家族とは電話での連絡もとっている。意見箱は置いているが入ることはない。年一回の家族会では出席者も多く、今後は家族のみで話し合う時間を組みたいと考えている。また、利用者から食事が美味しいと聞いた家族の話から、事業所では献立だけでは分かり難いだろうと写真を撮っている。日常の些細と思われることでも疎かにせず対応する姿勢がうかがえる。事業所外に苦情相談の窓口があることは書類に明記され説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は出やすく、改善しやすいことはすぐに取り入れられている。いろいろなアイデアがしやすい環境になっている。	1～2ヶ月に一回開く職員会議は18時半から約一時間、休みの職員も出席している。会議に限らず日常的に自由に発言しやすい環境である。予算など施設長の承認が必要なこと以外は現場の職員に任せてあり、日除け用ブラインド、リビングにあるベッドの目隠し等々は最近職員から出されたアイデアを活かしたものである。外部評価を受けるにあたり全員が自己評価を書いたことも自身のケアを振り返るきっかけとなっている。また、通信アプリのライン(グループ登録)を職員への連絡ツールに使っていることも新しい。申し送りノートにも記す内容だが、早い周知は状況を知って出勤することにもなり職員には好評である。管理者は働きやすい職場でもあるように配慮しながら、コミュニケーションも大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員のがんばりや貢献度を把握しており、環境整備や給与体系につなげられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	FC勉強会や管理者研修、その他の勉強会への参加の為、勤務調整なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	FC交流研修や管理者会議にて交流できている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の際や面会をしたときに聞ける範囲で話をし、要望などを聞き出せるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際に聞ける範囲でお話をし、不安解消につなげられるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や担当者からの情報をもとに早急に必要サービスを見極め、対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	雑談を通して暮らしの知恵、昔話、方言など教えてもらい共に暮らしている。大変なこともあるが癒されることも多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居期間が長い入居者様のご家族とはご家族の話をされたり、いい関係づくりができています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居と共になじみの関係が途切れ気味なのは事実である。なじみの方が来られた後に不穏になったり不眠になられることもある。	入居までの人間関係は本人と関わりのあった方々から情報を集めている。最近では病院からの入居が多いため、看護資料やその院内にある地域医療連携室(治療に必要な情報の連絡や退院後のサポート)で尋ねることもある。事業所では、入居に伴い利用者の馴染みの関係が薄れていくことは把握している。体力の低下もあり出掛けることが困難になっていることも理由のひとつである。しかし、訪れてくれるのは歓迎していて、家族の協力も得ながら今後の課題と考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者によっては関わりすぎてもよくない方もおられれば、かかわりを持たないといけない人もおられ、それぞれに合わせて対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談があれば応じるし、契約終了後も状況確認をすることはある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の言葉などから希望をくみ取るようにしているが、認知症の進行により意向は伝わりにくい。	利用者自らが想いを口にすることは年々難しくなっている。しかし、長く関わっている職員には仕草で分かることもある。それは日々のケアで心掛けている観察があるからで、そこからアイデアが閃き、安全に動ける環境作りに繋がった例もある。利用者がよく話をしてくれるのは入浴中の寛いだひととき、また、一対一でケアに当たっている時などで、聞き取ったことは連絡ノート等に記し共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を基にしたリサマリーなどから経過の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の観察やかかわりを密にすることで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からは要望を聞くようにしている。スタッフ全員からの意見を基に計画書を作れるようにしている。気づきはスタッフ会議で出したり、思い付きはメモしたりしている。	本人の想いは日頃の関わりの中で把握し、家族の要望は来所時や電話で汲み取っている。多くの家族は現状が維持できればと答えている。事業所では日常の動作こそ機能回復、残存能力の維持に繋がると考え支援している。サービス担当者会議で家族の同席はないが、家族アンケートでは、計画は分かりやすく説明を受け一緒に話し合っていると回答を寄せている。計画の設定期間は入居当初は1ヶ月、落ち着きと共に6ヶ月ごととしているが変化があればその都度、臨機応変に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを漏らすことなく記録できている。1か月単位で大まかな内容は把握できるような記録になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	求められる内容により関係機関と連携を取り、判断するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用ができていないかはやや不明だが、安心して暮らせていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に今までのかかりつけ医への通院か苑への往診か選んでいただいている。ほとんどが往診を選ばれている。	入居時に説明することは、協力医の往診が月2回、訪問看護も月2回、毎週どちらかの訪問を受けている医療体制である。本人や家族は納得して協力医への変更を決めている。皮膚科の往診もあり別途で訪問歯科も受けられる。薬局には薬の配達も依頼できる。家族からは健康管理や医療面での不安はないとの声が届いている。受診結果は、緊急でなければ毎月発行の苑だよりと一緒に報告され、発熱等も、まずは病状を観察し適切な処置をとった後に報告している。いたずらに家族へ心配を掛けない配慮である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも連絡が取れるので気になることを報告できて心強い。ドクターや看護師からの指示からも受けやすい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診を受けておられるので入院の場合も情報交換がスムーズである。入院時には面会などをして、病院関係者との関係づくりもできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設でできるターミナルケアについては説明している。必要時にはご家族・主治医・施設側との話し合いの場を設け、共通認識でケアができるようにしている。	指針があり入居時に説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意はある。いつ何時の問い合わせにもきちんと応え、適切な指示を出す訪問看護スタッフへの信頼は厚い。もし夜間に急変があれば自宅が近い順の職員2名も駆けつける手筈になっている。また、訪問看護ステーションの母体病院は、看護師と薬局も連携し勉強会を開いている。職員の不安解消とフォローが目的である。事業所では、みんながいる中で過ごしてほしいと考え、リビングのベッドを使うこともあった。容態の変化に伴い何度でも話し合いを重ね、家族も納得して最期が迎えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の勉強会は行えていないが、緊急時の連絡方法は把握しているし、気になることは看護師に伝えて、細かくアドバイスをもらい、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防団との協力体制はできているし避難訓練もしているが、避難場所まで避難するなどは行えていない。	年2回、消防署等の立会いもあり、火災を想定した避難訓練を昼間帯に行っている。事前に近隣住民に知らせ参加を得たこともある。全ての職員は消火器と火災通報装置の使い方を承知しており、スプリンクラーの設置もある。利用者も一緒に避難を体験しており、外部の応援者に介助の度合いを知らせる工夫もある。それは居室入り口の上に貼られた靴と車椅子マークの絵で、歩行可能や車椅子利用者を出している。避難済みの印は前回訓練の課題であったが現在も検討中である。指摘の中で、すぐに改善できるものは見直し、速やかに全員へ周知している。今後は自然災害を想定した訓練も検討している。非常食や水等の備蓄はないが、寒さを凌ぐ毛布類は備えている。フランチャイズ本部にも相談しながら備える予定である。一次避難場所は家族へも周知済みである。	火災を想定した訓練で避難場所を玄関先としている。利用者の体力等を考慮したと思われる。しかし、いざという時に備え、まず建物から離れ、歩いて行ける場所を決め(一次避難場所は車使用のため)、そこまでの道路の状態、障害物の有無、利用者を連れてどれくらい掛かるか、外灯はあるか等々の検証を是非行ってほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーに注意して言葉かけをするように気を付けている。	「6(5)身体拘束をしないケアの実践」とも重なるが、更に接遇研修なども事業所独自で行っている。トイレ介助と入浴の場面では特にプライバシーや羞恥心へも配慮されている。また、個人情報の取扱いに対しては一定の理解をしており、苑だよりに掲載される個人名や苑内に掲示している写真等は入居時に承諾も得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望は出にくいですが、答えの出しやすい問いかけをするようにこころがけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の一応の流れはあるが、1人1人のペースを大切にもらう様対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ブラシや鏡を用意して使ってもらい身だしなみを整えてもらうようにしている。できない方には支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けができる方がいない。行事などの時には好みのものなどを提供できるようにしている。	事業所ではごはんと汁物が作られ、主菜、副菜共に契約している業者から冷凍状態で届けられている。献立は数種類から事業所が選び、栄養価も計っている。利用者から食べたいもののリクエストがあればすぐに対応できる。冷凍食品は先へ延ばしても保存が利くからである。好き嫌いやアレルギーも把握しており、形状にも配慮している。殆どの利用者に食欲はあり、完食ではなくともある程度の摂取があれば無理に勤めることはしていない。栄養補助食品等の用意もある。誕生日は該当者が多い月はまとめているが、少なければ当日に祝い、ケーキ等も用意される。家族から差し入れが届くこともある。利用者と職員は同じテーブルで話をしながら同じものを食べている。和やかな食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表で把握し、対応できている。手を変え品を変え、いろいろな工夫を惜しまず行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりに合わせた対応をしている。口腔スポンジや口腔ケアジェルなどを使用している方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレチェック表でひとりひとりのパターンは把握しているし、坐薬使用後の反応なども把握している。	排泄に関して自立した人も数名いるが、任せたままでなく、さりげない見守りを行っている。パターンの把握によりトイレ誘導のタイミングが図れ失敗しない利用者もいる。リハビリパンツを使いながら、それはもしもの時の用心であり、実際には職員の声掛け等でケアされている。また、便座まわりに付けられた手摺りは立ち座りを助け自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響は理解している。なるべく水分摂取や腹部マッサージを促したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を基本としている。午前中の中の入浴を基本としているが午後からの時間を行事に当てたりできるので有意義に使っている。	入浴は週3回を目途にしているが、必要に応じてシャワーなども使い清潔保持を心掛けている。拒む人は職員を替えたりタイミングをずらして対応している。シャンプー・ソープ類は事業所で準備し、入浴剤を使うこともある。浴槽には自分で入れる利用者もいるが、リフト浴設備を使用するケースでは安全と職員の負担軽減にもなっている。午前中の中の入浴を基本としているのは、午後の時間がフリーとなり様々なことに使えるメリットがあるからである。衣服の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、羞恥心にも配慮しながら見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に気をつけたり、寒い時は湯たんぽの入れたりと工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明や情報がとてもわかりやすく、内服変更時にはきちんと内容確認もしてもらっており、管理がしやすくなっている。職員も服薬担当を作っており責任をもって対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いや軽作業をしてもらい、生活の張りこしてもらっているが、できなくなっていることが多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時には散歩を良くしていた。自力歩行ができる方がかなり少なく、外出の機会が少なくなっている。	事業所の自己評価でも外出の機会は減ったと答えている。歳を重ねるごとに体力の低下は否めず、職員が開花情報などを話題にしても興味を示す利用者は少なくなっている。独自の車椅子対応車両は所有しておらず遠出は難しいのが現状である。本人の口から希望が聞かれることが減ったとしても、事業所では外の空気に触れることの大切さは理解している。天候や体調を考慮し、周辺での日常的な散歩から増やしていくことを検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お守り程度にお金を所持しているかたもおられるが、買い物希望される入居者が現在おられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を受け取られると喜ばれるが返すことは難しい。電話の希望もほとんどないが、ある時は応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わかりやすい表示をこころがけている。温度・湿度・換気に注意し、今年は加湿器も増やした。季節の飾りつけは入居者に合うものとなるよう注意している。光による不快感を訴える方のためにブラインドを使用したり、西日の当たり具合で暖簾をさげたりと工夫している。	自己評価にある分かり易い表示とは「トイレ→便所/浴室→湯」など昔ながらの言い方になっていることである。リビングの飾りは幼稚にならず、季節を感じてもらえるよう心掛けている。カレンダーも馴染みのある日めくりを調達し、めくることを日課としている利用者もいる。日中はみんなが同じレクリエーションをするのではなく、新聞を読むなど思い思いに過ごしている。ひとりになりたい利用者のために簾に造花を飾り簡易の衝立も手作りしている。住宅地の奥まった所に位置しており、車の往来は少ない。すぐ近くの頭上には橋が架かっているものの騒音は気にならない。掃除は職員が行い、トイレ等もきれいに掃除され嫌な臭気はない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、リビングで過ごしたり、リビングでもついたてを使って仕切りをしたりと過ごしやすいような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真などを持ち込まれたり、趣味のものを持ち込まれたり思い思いのものを飾ったりしながら快適に過ごされるようにしている。	使い慣れた品物を置き、落ち着いて暮らせるよう支援している。持ち込む物には火気等の危険物以外に制限はしていない。ベッドの他に収納棚や洗面台が設置されている。居室の掃除は職員が行い、きれいに片付けられている。パット類が無造作に置かれていることもない。各居室には職員が書いた似顔絵も飾られている。家族が希望すれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印をつけたり、居室内でも安全に手をついて支えにできるように家具などの配置を工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない